



1 中央卸売市場再整備事業に関して

- ・議会での質疑応答の重みと手続について
- ・基本設計の完了時期の延長理由と延長に伴う契約と財政処理、基本設計の完了と着工の実施状況について
- ・粗雑な提案とも受け止められる第2案・第3案、そのさまざまな提案手法、詭計を弄したとの疑念をも生じさせる詳細説明ができない用地とレイアウト案についての提案に至った経緯と今後の方針について
- ・令和4年12月26日付の、基本設計、実施設計に係る卸売市場整備に関する要望書、並びに使用料に関する公印文書の内容遵守について
- ・市場関係者から実質的に「場外移設」で「二重投資」との指摘のある「場外仮設」に対する考え方について
- ・未来共創計画で掲げている新たな工業団地や物流施設の推進に係る取組と進捗、複数エリアでの産業用地の確保、民間主導による産業用地造成手法、都市計画マスタープランの見直しの方向性について

2 金沢市立病院事業に関して

- ・医師の働き方改革と地域医療提供体制の両立の影響について
- ・医療DXの推進によるスマートホスピタルの実現など高度情報社会における医療分野の取組、2040年を目指した医療供給体制の構築について
- ・再整備計画策定の進捗、地域医療支援病院としての役割を果たすための切れ目のない医療供給体制の取組について
- ・新興感染症医療や災害時医療への対応、生活習慣病への機能強化など、保健・医療提供体制の構築と診療体制の強化について
- ・県立中央病院とのすみ分け、市立病院に求められている機能、求めている機能、機能強化に向けた金大との協議、新たな日常医療圏について
- ・部門別面積設定と算定基準に基づく医療の高度化や複雑化への対応、1床当たりの面積について
- ・必要とする敷地面積と周辺の環境整備に係る周辺用地の取得の有無、公共交通機関の利便性の向上、現病院跡地の活用について
- ・市立病院整備における概算総事業費、整備スケジュール、財政収支試算計画について
- ・持続可能な安定経営への裁量権確保のための経営形態論議について

中央卸売市場再整備事業に関して

問 基本設計の完了時期の延長理由と、延長に伴う契約と財政処理、2月末の基本設計の完了と2026年度中の工事着工が間違いなく実施できる状況にあるかを聞く。

答 建設、引越、解体を繰り返す建設工程計画の策定に向けた調整に時間を要するため、基本設計の工期を延長することとし、9月13日付で、設計業者と期間延長の変更契約を締結した。現在、設計業者の専門的知見を交えながら、市場事業者と協議しているところであり、2月末までに基本設計を完了し、来年度から速やかに実施設計に着手することで、令和8年度中の建設工事の着手を目指す。(農林水産局長)

金沢市立病院事業に関して

問 医師の働き方改革と地域医療提供体制の両立の影響について、病院事業管理者に聞く。

答 本年6月に夜間や休日の救急における勤務体系の見直しを行ったほか、特定行為看護師の計画的な養成など、医師の負担軽減を進めていくこととしている。救急車の受入れ台数も、令和5年の2,082台から令和6年は2,200台を超える状態となっており、引き続き、医師が働きやすい環境の整備と地域医療提供体制の両立を図っていきたい。(病院事業管理者)



長町武家屋敷界隈を愛する会 恒例の鞍月・大野庄用水清掃活動

市立病院移転計画の推進など

創生かなざわが市長要望

全42項目

金沢市議会会派・創生の開発事業の検討▽金石かなざわの玉野道会長は17日、新年度当初予算にかかる要望書を村山卓市長に提出した。要望事項は市政全般にわたる全42項目で、「すべての人々とともに、心豊かで活力ある未来創りの推進」を強く求めた。主な要望内容については、▽市立病院の人員拡充と処遇改善、移転計画の早期推進ならびに保健所との連携強化▽木の文化都市施策の推進と竹林



規模算定など、年度内策定へ

金沢市立病院再整備基本計画

建設地手狭なら用地取得も

金沢市立病院事務局 基本計画策定の進捗状況は、「市立病院再整備基本計画」の策定作業を統括して、市議会12月定例会で玉野道議員(創生)が、概算事業費や整備スケジュールなども含め、年度内に取りまとめる方針だ。市立病院(平和町3丁目)は1988年に竣工した本館と、89年完成の別館、99年に供用を始めた東館の計3棟で構成。いずれも老朽化、狭小化などが課題で、市では現病院と立地条件が同等の平和町公園(平和町2丁目)敷地面積9,244.25平方メートル(国有地)を移転候補地に決め、新病院建設を目指す。再整備基本計画策定支援業務はシブヘルズスペアリアチ&コンサルティングが担い、履行期間は2025年3月31日まで。



現敷地以外の活用含め協議

中央卸売市場再整備基本計画検証へ

金沢市議会経済環境常任委員会が17日開かれ、市側は新年度に実施予定の中央卸売市場再整備基本計画の検証について報告した。同市場再整備に伴う基本設計を巡っては、履行期限を2024年9月末から今年2月末に延長したが履行できず、3月末に再延長、今年度最終修正予算は基本設計増額経費が計上され、修正予算の可決後、設計期間を算の可決後、再度変更し、完了を目指す。

現病院の現状と課題を整理するとともに、新病院に必要な医療機能等も検討している。それらを踏まえ、必要病床数などは県の中央医療構想調整会議に諮る。再整備基本構想では1床あたりの面積を75.85平方メートル、現在、外来や入院、中央診療部門、手術室、福利厚生等の各部門に必要な施設規模を検討。今後これを基に収支計画と合わせ、病院全体の施設規模を取りまとめるべく進めたい。



金沢市立病院の新病院建設地に充てる「平和町公園」=平和町2丁目地内

「日刊 建設工業新聞」2024年12月24日

「日刊 建設工業新聞」2025年3月18日

金沢市

令和6年12月議会質問 中央市場再整備事業について

8月1日の市場事業関係者との会議で、基本設計の完了時期の延長と場外仮設との新たな提案が既に示されたことと仄聞しており、本会議の場においてその延長理由や方針転換と思われる重大な事案も欠いた答弁に、私には欺瞞に満ちた姿勢に捉えられます。これらが事実であるとするれば、再整備事業に関するこの間の私の質疑応答との相違は明らかで、3月定例会月議会の連合審査会における答弁とのおそごも生じていると捉えます。そこで、議会での質疑応答の重みと手続をどのように認識されておられるのでしょうか、お尋ねいたします。

狭隘な現在地でのローリング方式による再整備事業に対し、水源の確保と埋設管の取扱い、駐車場と仮設店舗等の種地の確保、再整備費と施設使用料等の課題が山積する日本で一番至難な再整備事業との認識から、これまで多岐にわたる課題への指摘と問題点をただしてきましたが、それらへの答弁の矛盾があらわになり、基本設計の完了には至らなかったと私は捉えます。そこで、基本設計の完了時期の延長理由と基本設計延長に伴う契約と財政処理、2月末の基本設計の完了と2026年度中の工事着工が間違いなく実施できる状況にあるのかをお尋ねいたします。

さて、8月1日に開催された卸売会社・仲卸組合の代表を含む関係者18人での市場再整備代表者会議について耳にする内容は、再整備事業に関する4案が示され、1年半以上をかけて協議を重ねてきた現地完結ローリングの第1案は、工期を10年以内から18年11か月とし、総事業費366億円、仮設工事費60億円を示し、断念するとの報告があったと聞いています。この間、現地完結ローリング計画に関し、市場関係者から様々な指摘の中、現地完結ローリングに伴う課題を一つずつクリアすべく協議を重ねられてきたことから、戸水地区での青果部場外仮設の第2案、水産物部場外仮設の第3案の提案に唐突感が拭い切れなかったと市場事業関係者は一様に口をそろえています。場外仮設の第2案と第3案は、基本構想で物流拠点・中継拠点としてうたった機能や周辺道路環境の整備、冷蔵施設・加工施設等の内容・規模等の説明もなく、場外仮設費に対する使用料も曖昧なままに、戸水地区以外の用地確保にも言及、その詳細については、土地所有者との協議が調っておらず説明できないとしながらレイアウト案を提示する姿勢に、私には荒唐無稽としか捉えられません。さらには、このような再整備の根幹にも関わる重大な方針転換と提案が一度も議会に報告されていなかったのはなぜでしょうか。そこで、粗雑な提案とも受け止められる第2案・第3案、そのさまざまな提案手法、詭計を弄したのではとの疑念をも生じさせる詳細説明ができない用地とレイアウト案について、提案に至った背景と今後の方針も含めて併せてお尋ねいたします。

新年度予算案を村山市長に手渡す玉野会長 11月17日、金沢市役所で 「日刊 建設工業新聞」 2024年12月18日



玉野 道 (「道」と書いて「まこと」と読みます。)

昭和24年6月金沢市玉鉦町に生まれる。米九小学校、泉中学校、金沢市立工業高校機械科を卒業。北國新聞社制作局印刷部勤務を経て、現職。平成3年4月金沢市議会初当選以降、現在9期目。家族は妻・長女・次女・長男の5人。

自宅：〒921-8002 金沢市玉鉦3丁目123 / 事務所：〒921-8006 金沢市進和町19番地2 TEL 076-291-1245 / FAX 076-292-4133 / MAIL tama@nsknet.or.jp



ホームページ

Facebook





1 「新たなクールジャパン戦略」と未来共創計画に関して・本市における「クールジャパン戦略」の影響と「新たなクールジャパン戦略」の下での未来共創計画における取組について

- ・コンテンツ産業における人材育成と産官学連携、クリエイター支援について
- ・金沢美術工芸大学の業務実績評価と「地域や市民に開かれた」大学運営の現状と、学生や地域住民等へのアンケート実施や、県立図書館との連携について
- ・美大の第3期中期目標の「稼ぐ力」による収入源の多様化、未来共創計画における位置づけ、コンテンツ産業を支える人材育成といった観点からの美大の在り方、金沢に美大がある意義について
- ・コレクションの活用、美術館の学芸員・専門員の養成、21世紀美術館との連携強化、「美大を芸大に」との提言に対してについて
- ・21世紀美術館のトークイベントで出された意見の反映と開館20周年記念イベントについて
- ・21世紀美術館の指定管理者の管理・運営の課題、今後の21世紀美術館について
- ・「二冠に輝いた」企業活動と人材活用の進展策、金沢湯涌温泉の現状と課題、今後のプロモーション効果の最大化の取組について

2 公立中学校の部活動改革と産業教育に関して

- ・現時点での取組状況と課題について
- ・全国中学校体育大会の規模縮小について
- ・今後の全国中学校体育大会の在り方、日本中学校体育連盟が開催する大会課題、部活動に関する指導要領の改正論議について
- ・市立工業高校における「ものづくり教育を推進するためのコンソーシアム」の設置と取組について
- ・市立工業高校における「一歩先を行く工業教育」の具体的な取組について
- ・市立工業高校の修学旅行先の変更と台湾への修学旅行の意義と位置づけについて
- ・産業教育振興法改正論議に対する考え、並びに工業教育の時代に即した新たな取組について
- ・Society5.0における市立工業高校の将来像について



長町景観地区指定十周年記念式典



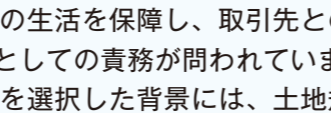
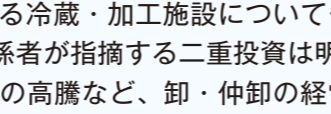
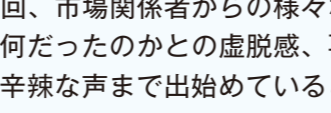
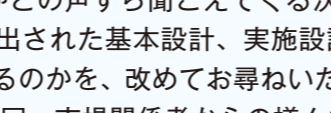
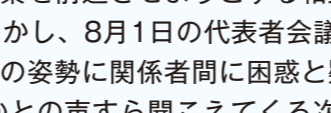
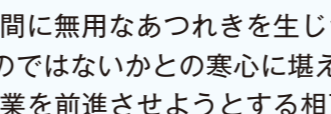
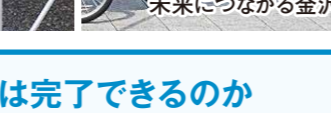
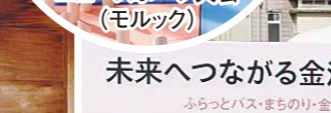
金沢市スポーツ協会 新年会



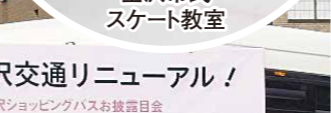
冬支度



米丸公民館文化祭



パチパチそるぼん ヨシケール



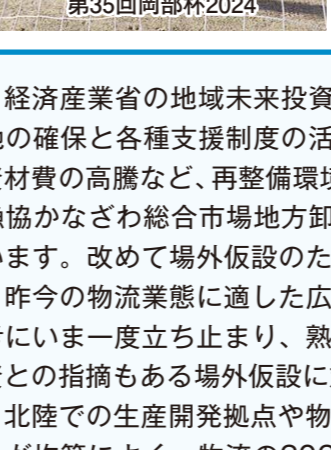
フェスタヨネマル 2024



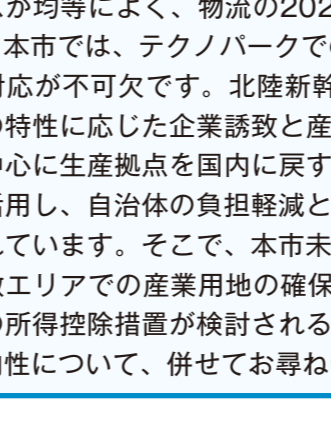
米丸校下 二十歳のつどい



第35回阿部杯2024



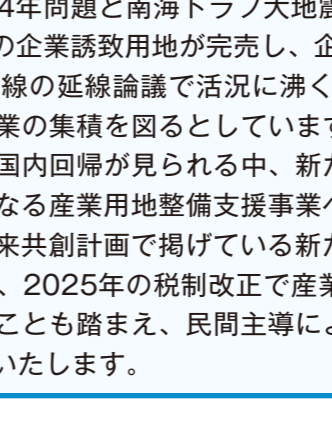
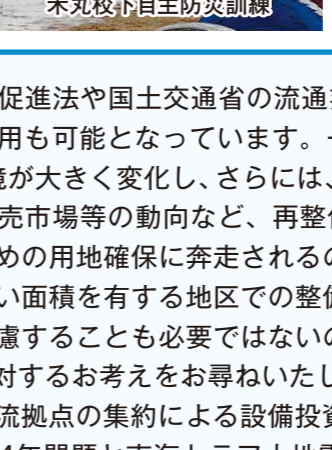
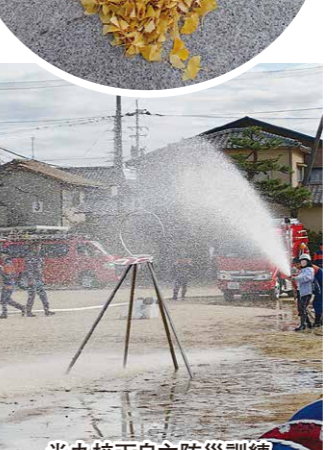
米丸校下 自主防災訓練



米丸校下 新年互礼会



和気あいあい 新年会



湯涌温泉のプロモーション効果について

問 湯涌温泉のプロモーション効果を最大化するための取組について聞く。

答 湯涌地区においては、湯涌温泉観光協会を中心に、地元事業者や市有施設が連携し、温泉、氷室開きを始めとする四季折々の伝統行事や豊かな自然環境など、地域が持つ様々な魅力を生かしたコンテンツ造成に取り組んでいる。

このような取組を通じた湯涌温泉のブランド力向上と新たな顧客の獲得が重要と考えており、引き続き、地元事業者と連携し、首都圏等でのプロモーションなど様々な機会を通じて湯涌温泉の魅力発信に取り組んでいきたい。(市長)

公立中学校の部活動改革について

問 公立中学校の部活動改革において、学校や地域の実情を踏まえて進めることが重要だが、現時点での本市の取組状況と課題について聞く。

答 本市では、休日の運動部活動の地域移行に向けて、来年5月から、柔道部を対象としたモデル事業を開始したところである。また、先般、運動部活動地域移行検討協議会を設置したところであり、9月には第1回目の会議を開催し、活動場所や指導者の確保、モデル事業を通して見えてきた課題やその解決策など、今後の部活動の地域移行の方向性などについて検討を進める。一方、文化部活動についても、アンケートにより、活動状況や課題等を調査・整理することとしており、引き続き、教育委員会と連携を図りながら、地域移行に向けた取組を着実に進めていく。(市長)

中央卸売市場再整備事業方針転換と新たな提案で、2月末に基本方針は完了できるのか

これらの方針転換と矢継ぎ早の新たな提案により、青果部と水産物部、卸・仲卸間に無用なあつれきを生じさせ、会議が流会状態にあると仄聞することからも、再整備事業が深刻な局面に陥っているのではないかと懸念が広がっています。この春までは、市場事業者との間でかんかんがくがくの論議が重ねられ、再整備事業を前進させようとする相互協力の姿勢が保たれていたと思われることは、これまでの会議数からも推察できます。しかし、8月1日の代表者会議以降は、新たな提案の内容と説明も不十分なままに、一方的に合意を迫っているかのごとくの姿勢に関係者間に困惑と疑心暗鬼が広がっており、卸売市場関係者との協議と合意事項が水泡に帰したのではないかとの声すら聞こえてくる次第です。そこで、令和4年12月26日付の基本設計に際しての業界関係者から市長宛てに提出された基本設計、実施設計に係る中央卸売市場整備に関する要望書並びに使用料に関する公印文書の内容が遵守されるのかを、改めてお尋ねいたします。昨年15か月余、青果・水産で各分科会を含め、青果部で40回、水産物部で52回、市場関係者からの様々な提案に金科玉条のごとく現地場内ローリングとの一貫姿勢からの豹変に、今までの協議は何だったのかとの虚脱感、再整備に対する失望感から、定期人事異動で二、三年しか在籍しない職員のお役所仕事との辛辣な声まで出始めていると聞きます。また、たとえ場外仮設であっても、HACCPや水処理等など、食品衛生法に係る冷蔵・加工施設についても、本格施設整備が求められることは必定で、場外仮設費が低廉で済むはずもなく、市場関係者が指摘する二重投資は明らかで、使用料の上振れは避けられないと考えます。卸売市場を取り巻く環境変化や諸経費の高騰など、卸・仲卸の経営環境が一段と厳しくなっている中、市場関係者は再整備事業に社運をかけ、従業員と家族の生活を保障し、取引先との信用も堅持しなければならず、卸売市場法改正に伴い、施設管理者から脱却した市場経営者としての責務が問われています。今、場外仮設用地の確保に奔走されているようですが、当時、場内完結ローリング方式を選択した背景には、土地規制の関係から適地の探求が難しいと結論づけられたと記憶しています。

今日、経済産業省の地域未来投資促進法や国土交通省の流通業務総合効率化法の趣旨に沿った土地利用の緩和策で、産業用地の確保と各種支援制度の活用も可能となっています。一方、物流の2024年問題、働き方改革と人手不足、人件費と資材費の高騰など、再整備環境が大きく変化し、さらには、能登半島地震と豪雨の二重被災に伴う県内産品の減少、石川県漁協かなざわ総合市場地方卸売市場等の動向など、再整備計画が策定された令和5年以降、その環境は大きく変遷しています。改めて場外仮設のための用地確保に奔走されるのであれば、狭隘な敷地での現在地建て替えと場外仮設の検証、昨今の物流業態に適した広い面積を有する地区での整備について、築地と豊洲の移転事例からも、他市場再整備を参考にいま一度立ち止まり、熟慮することも必要ではないのでしょうか。市場関係者からは、実質的に場外移設で二重投資との指摘もある場外仮設に対するお考えをお尋ねいたします。

近年、北陸での生産開発拠点や物流拠点の集約による設備投資が加速している要因として、東京・大阪・名古屋へのアクセスが均等によく、物流の2024年問題と南海トラフ大地震などを踏まえたリスク分散の狙いもあると言われていますが、本市では、テクノパークでの企業誘致用地が完売し、企業誘致や立地を促す産業用地については心細い限りで、早急な対応が不可欠です。北陸新幹線の延線論議で活況に沸く小浜市は、市内4か所で企業誘致重点エリアを設定し、エリアの特性に応じた企業誘致と産業の集積を図るとしています。また、昨今の地政学リスクや為替変動の影響で、製造業を中心に生産拠点を国内に戻す国内回帰が見られる中、新たな経済産業省の方針に基づく中小企業基盤整備機構の基金を活用し、自治体の負担軽減となる産業用地整備支援事業への応募は九州地方の自治体が多く、他自治体は少ないと言われています。そこで、本市未来共創計画で掲げている新たな工業団地や物流施設の推進に係る取組と進捗、市内での複数エリアでの産業用地の確保、2025年の税制改正で産業用地整備のための自治体と連携する民間事業者に譲渡する際の所得控除措置が検討されることも踏まえ、民間主導による産業用地造成手法と都市計画マスタープランの見直しの方向性について、併せてお尋ねいたします。